

各部・支所・課、機関の長 殿

市 長

令和 8 年度予算編成方針について（通知）

1 国の動向

内閣府が発表した 8 月の月例経済報告では、景気認識を示す基調判断を「景気は、米国の通商政策等による影響が一部にみられるものの、緩やかに回復している」としており、「先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。加えて、物価上昇の継続が、消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある」としている。

これを受けた国の政策の基本的態度は、「経済財政運営と改革の基本方針2025～『今日より明日はよくなる』と実感できる社会へ～」に基づいて、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」を実現していくとしている。

令和 8 年度予算の概算要求の基本的な方針は、「経済財政運営と改革の基本方針2025」等に基づき、歳出全般にわたり、施策の優先順位を洗い直し、予算の中身を大胆に重点化する。要求・要望は賃金や調達価格の上昇を踏まえて行い、予算編成過程において、物価上昇に合わせた公的制度の点検・見直しも踏まえ、経済・物価動向等を適切に反映することとしている。

2 本市の状況

本市の普通会計における令和 6 年度決算の歳入総額は、658 億 3,796 万 3 千円、歳出総額は、608 億 4,851 万円であり、実質収支は、40 億 2,611 万 2 千円の黒字となり、実質単年度収支も、11 億 9,677 万 6 千円の黒字となった。なお、財政調整基金の令和 6 年度末残高は、80 億 2,143 万 4 千円で 100 万円程減少した。

財政構造の弾力性を示す経常収支比率では、91.3%と前年度から 0.6 ポイント改善しているが、適正な水準とされる 70%～80%程度より高く、依然として財政構造の硬直化が続いている。

また、少子・高齢化に伴う社会保障関係経費や公共施設の維持管理経費など、経常的経費が年々増加している状況にあることから、健全で持続可能な財政構造を確立するためには、より一層の効率的・効果的な行財政運営に努める必要がある。

3 本市の予算編成方針

令和8年度の予算編成においても引き続き、「第3次薩摩川内市総合計画」に基づいた施策を推進するとともに、「実施計画事業」、「重点戦略プラン事業」及び「薩摩川内スマイルアクション50」の着実な進展を図り、社会の動向や行政ニーズを的確に捉え、新たな行政課題の解決にも積極的に取り組むこととする。

あわせて、持続可能で魅力的なまちづくりを目指す「薩摩川内市未来創生SDGs・カーボンニュートラル宣言」及び「薩摩川内市SDGs未来都市計画」の趣旨を踏まえた取組を推進する。

具体的には、少子化対策・子育て支援、高齢者の健康生きがいづくり、コミュニティ・市民活動、産業人材確保・移住定住促進、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、ふるさと納税の取組等を推進する。

また、社会変化が著しい中、市民ニーズを的確に把握し、限られた財源を有効に活用するため、既存事業については事業効果や成果を厳しく検証し、必要に応じて廃止・休止などの見直しを積極的に行うとともに、新規事業については、国等の財源を最大限に活用し、新たな施策の展開を図る。

これらの取り組みにより、中期財政運営指針に基づいた、健全かつ持続可能な財政運営の確立を目指す。

なお、この方針に定めるもののほか、予算編成の基本的な考え方や要求要領等については、別途示すこととする。